

A Remark on derived equivalences and perfect isometries

切刀直子 (Naoko Kunugi)

愛知教育大学・数学教育講座 (Aichi University of Education)

1 Introduction

$(K, \mathcal{O}, k)$ を十分大きな p -modular system とする。有限群 G, H に対し、 A, B をそれぞれ G, H のブロックとする。 A, B の間に derived equivalence があれば、 A, B の間に perfect isometry が存在するが、逆は一般には成立しない (例えば、 $p=2$ のとき、 OD_8 と OQ_8 の間では perfect isometry が存在するが、derived equivalence は存在しない)。

ここでは、cyclic defect をもつ block の perfect isometry と derived equivalence について考えたい。Cyclic block については Brauer tree algebra であることから、いろいろな人によりいろいろなことが調べられている。ここでの話は、それらの結果から容易にわかるものばかりであると思う。

以下の話で使う Derived equivalence や perfect isometry の定義などの一般論は、Broué ([1], [2]), Rickard ([6], [7], [8]), Rouquier ([10]) などの文献を参照していただきたい。

2 Example

まず、例を紹介する。

$G = Sz(8)$, $p=5$ とする。 $|G| = 29120$ であり、 G の Sylow 5-部分群 P は位数 5 の巡回群 C_5 となる。 G には 位数 3 の巡回群 $S \cong C_3$ が作用していて、 $H = C_G(S) = N_G(P) \cong C_5 \times C_4$ である。

A を G の principal block とし、 B を H の principal block とする。 A, B の decomposition matrix は次の通りである。

	k	14_1	14_2	63		1_a	1_b	1_c	1_d
χ_1	1				θ_{1_a}	1			
χ_{14_1}		1			θ_{1_b}		1		
χ_{14_2}			1		θ_{1_c}			1	
χ_{64}	1			1	θ_{1_d}				1
χ_{91}		1	1	1	θ_4	1	1	1	1

これより A, B の Brauer tree がわかるが、ここでは省略する。Rouquier は cyclic block に対して、splendid tilting complex の構成を与えている ([9] を参照)。それにしたがって、この場合の splendid tilting complex を構成すると、

$$0 \longrightarrow P_{14_1} \otimes P_{1_c} \oplus P_{14_2} \otimes P_{1_b} \longrightarrow M \longrightarrow 0$$

となる。ただし、 M は A を $k[G \times H]$ -module としてみたときの唯一つの vertex $\Delta(P)$ の直既約因子である。この splendid tilting complex により誘導される perfect isometry は

$$\begin{pmatrix} \chi_1 \\ \chi_{14_1} \\ \chi_{14_2} \\ \chi_{64} \\ \chi_{91} \end{pmatrix} \longrightarrow \begin{pmatrix} \theta_{1_a} \\ -\theta_{1_b} \\ -\theta_{1_c} \\ \theta_4 \\ \theta_{1_d} \end{pmatrix}$$

となることが計算できる。

一方この設定では A と B の間の Glauberman 対応を考えることができ、次のような perfect isometry を与えていることが示されている (Watanabe [11] を参照)。

$$\begin{pmatrix} \chi_1 \\ \chi_{14_1} \\ \chi_{14_2} \\ \chi_{64} \\ \chi_{91} \end{pmatrix} \longrightarrow \begin{pmatrix} \theta_{1_a} \\ -\theta_{1_b} \\ -\theta_{1_d} \\ \theta_4 \\ \theta_{1_c} \end{pmatrix}$$

この perfect isometry を与えるような splendid tilting complex が存在するかどうか考えたい。実際、これは次の定理などを使うことにより、比較的容易に構成することができた。

Theorem 2.1 (Rickard[8]) A, B を symmetric k -algebra とする。 $F : \text{mod} A \longrightarrow \text{mod} B$ を exact functor で、stable equivalence を導いているとする。 $\{S_1, \dots, S_r\}$ を simple A -module の全体とする。

このとき、 $F(S_1), \dots, F(S_r)$ に stably isomorphic な complex $X_1, \dots, X_r$ で、

(i) $\text{Hom}_{D^b(\text{mod} B)}(X_i, X_j) = \delta_{ij}$

(ii) $\text{Hom}_{D^b(\text{mod} B)}(X_i, X_j[m]) = 0$ for $m < 0$

(iii) $X_1, \dots, X_r$ は $D^b(\text{mod} B)$ を生成

を満たすようなものが存在すれば、 A と B は derived equivalent である。

ここでの例では、bimodule M により stable equivalence $F = - \otimes_B M^*$ が与えられている。 $F(S)$ は S の Green 対応子に一致する。次のような complex を考える。

$$\begin{array}{lclclcl} X_a : & & 0 & \rightarrow & k & \rightarrow & 0 \\ X_b : & 0 & \rightarrow & P_{14_1} & \rightarrow & F(1_b) & \rightarrow & 0 \\ X_c : & & 0 & \rightarrow & F(1_c) & \rightarrow & 0 \\ X_d : & & 0 & \rightarrow & F(1_d) & \rightarrow & P_{14_2} & \rightarrow & 0 \end{array}$$

これらの complex は simple B -module の F による像に stably isomorphic であり、Rickard の定理 (Theorem 2.1) の条件を満たしている。このとき、splendid tilting complex X で、 $1_i \otimes_B X \cong X_i$ となるものが存在することもわかる (Holloway [3] 参照)。 X は $\mathcal{O}$ の splendid tilting complex に lift でき、これにより誘導される perfect isometry が Glauberman 対応により与えられるものに一致する。

3 Remark

Cyclic block に対しては、次のことがわかる。

Remark 3.1 p を奇素数とし、 A, B は共通の cyclic defect group D と共通の inertial group $E(\neq 1)$ を持つとする。このとき A と B の間の任意の perfect isometry に対し、splendid tilting complex X で、 X の誘導する perfect isometry が non-exceptional character において I と一致するようなものが存在する。

Perfect isometry では必ず exceptional character は exceptional character に対応することと、Rouquier [9] により A, B はともに $\mathcal{O}[D \rtimes E]$ に splendid equivalent であることに注意すると、上の Remark は次のことからわかる。

Proposition 3.2 $C = k[D \rtimes E]$ とおく。 C の simple module を $S_1, S_2, \dots, S_e$ とし、 S_i に対応する指標を χ_i とする。ただし、 $S_{i+1} = \Omega^2 S_i$ とする。このとき、 $1 \leq n < e$ に対し、

$$\begin{aligned} I(\chi_n) &= \chi_{n+1} \\ I(\chi_{n+1}) &= \chi_n \\ I(\chi) &= \chi \quad (\chi \neq \chi_n, \chi_{n+1}) \end{aligned}$$

なる perfect isometry I を誘導する splendid tilting complex X が存在する。

これに対しては、先ほどのように Rickard の定理 (Theorem 2.1) を満たす complex を見つけておけばよい。 $1 \leq i \leq e$ に対して、complex X_i を

$$\begin{array}{ccccccc} X_i : & & 0 & \longrightarrow & S_i & \longrightarrow & 0 \quad (i \neq n, n+1) \\ X_n : & 0 & \longrightarrow & P_{n+1} & \xrightarrow{\psi_n} & P_n & \xrightarrow{\phi_n} S_n \longrightarrow 0 \\ X_{n+1} : & & 0 & \longrightarrow & P_{n+1} & \xrightarrow{(\psi_n, \phi_{n+1})} & P_n \oplus S_{n+1} \longrightarrow 0 \end{array}$$

とする。ただし、

$$\begin{array}{ccccccc} P_{n+1} & \xrightarrow{\psi_n} & P_n & \xrightarrow{\phi_n} & S_n & \longrightarrow & 0 \\ & & P_{n+1} & \xrightarrow{\phi_{n+1}} & S_{n+1} & \longrightarrow & 0 \end{array}$$

はともに minimal projective resolution であるとする。

$F = - \otimes_C C : \text{mod } C \rightarrow \text{mod } C$ は (自明な) stable equivalence を与えるが、上で定義した X_i は $F(S_i)$ と stably isomorphic であり、Rickard の定理の条件を満たしている。よって、splendid tilting complex X で、 $S_i \otimes_C X \cong X_i$ となるものが存在することがわかる。 X は $\mathcal{O}$ の splendid tilting complex に lift でき、これにより誘導される perfect isometry を計算すると、命題の主張のようになる。

Remark 3.3 exceptional character でのずれは ($\mathcal{O}$ 上の) derived equivalence により調整できるはずである ([5] などを参照)。

参考文献

- [1] M. Broué, Isométries parfaites, types de blocs, catégories dérivées, *Astérisque* **181-182** (1990), 61–92.
- [2] M. Broué, Equivalences of blocks of group algebras, in *Finite Dimensional Algebras and Related Topics*, (edited by V. Dlab and L.L. Scott) Kluwer Acad. Pub., Dordrecht, 1994, pp.1–26.
- [3] M. Holloway, Broué’s conjecture for the Hall-Janko group and its double cover *Proc. London Math. Soc.*, (3) **86** (2003), 109–130.
- [4] M. Linckelmann, Stable equivalences of Morita type for self-injective algebras and p -groups, *Math. Z.*, **223** (1996), 87–100.
- [5] M. Linckelmann, On stable equivalences of Morita type. in “Derived equivalences for group rings” *Springer Lecture Notes in Math.* **1685**, (1998) 221–232
- [6] J. Rickard, Morita theory for derived categories, *J. London Math. Soc.* (2) **39** (1989), 436–456.
- [7] J. Rickard, Splendid equivalences : Derived categories and permutation modules, *Proc. London Math. Soc.* (3) **72** (1996), 331–358.
- [8] J. Rickard, Equivalences of derived categories for symmetric algebras, *J. Algebra*, **257** (2002), 460–481.
- [9] R. Rouquier, The derived category of blocks with cyclic defect groups, in “Derived equivalences for group rings” *Springer Lecture Notes in Math.* **1685**, (1998), 199–220.
- [10] R. Rouquier, Block theory via stable and Rickard equivalences, in “Modular representation theory of finite groups” (Charlottesville, VA, 1998) pp.101–146, de Gruyter, Berlin, 2001
- [11] A. Watanabe, The Glauberman character correspondence and perfect isometries for blocks of finite groups, *J. Algebra* **216** (1999), 548–565